

平成 30 年度第 4 回ピースツーリズム推進懇談会 会議要旨

1 開催日時

平成 31 年 2 月 14 日(木) 10 : 00～12 : 04

2 開催場所

広島市役所本庁舎 14 階 第 7 会議室（広島市中区国泰寺町一丁目 6 番 34 号）

3 出席者

懇談会構成員

団 体 名 ・ 役 職	氏 名
特定非営利活動法人 ANT・Hiroshima 理事長	渡部 朋子
特定非営利活動法人ひろしまジン大学 代表理事	平尾 順平
被爆体験証言者（平和記念資料館元館長、元国際平和担当理事）	原田 浩
一般社団法人ひろしま通訳・ガイド協会 会長	古谷 章子
広島市市民局国際平和推進部 部長	津村 浩
広島市経済観光局観光政策部 部長	阪谷 幸春

（計 6 名、欠席 2 名）

事務局

観光プロモーション担当課長、課長補佐、主査 （計 3 名）

4 議題

- (1) スマートフォン向けコンテンツの周知に向けた取組状況について
- (2) リーフレットの制作について
- (3) 懇談会で提起された意見や提案への対応について
- (4) その他意見交換

5 公開・非公開の別

公開

6 傍聴人の人数

2 名

7 会議資料名

資料 ピースツーリズム推進懇談会（平成 30 年度第 4 回）

8 発言の要旨

（原田座長）平成 29 年度にこの懇談会を立ち上げ、半年余りかけて色々な議論を展開し、その結果を昨年 2 月にとりまとめて市長に報告した。その時に、これが成果に繋がるのかは、各部局がしっかりと受け止め、努力を重ねていくのかどうかにかかっており、そのためには市長の大きな力が必要だと伝え、市長からも快諾をいただいた。今年度も 4 月から、とりまとめた結果を受けて、担当部局では色々な議論をしてくれた。中には、すぐには困難な事業もあろうが、具体化していけるように、大きな力を持って推進していただきたい。職員一人一人の取り組む姿勢が大事であり、予算がない、人がいない、だからできないということではなく、どうしたらできるかということを考えて努力してほしい。今日は、今年度に取り組んできた事業の概要とあわせて、新年度事業の内容について、事務局から説明していただく。それを踏まえうえで、次のステップに進んでいけるよう、皆さんからご意見をいただきたい。

《事務局から資料に基づき説明》

(原田座長) 県と市の所管する被爆建物をどうするのかという中国新聞の社説(1月8日付け)と、「被服支廠の活用 耐震化なお課題」(1月6日付け)という新聞記事を配付しており、これらについてもご議論いただきたい。また、平尾委員のところで広島駅構内において金・土・日曜日に実施している外国人観光客への案内活動が、中国地方観光振興アワードを受賞され、私も嬉しく思っている。日頃の努力の成果がここに現れたのだと思う。このような地道な活動が行われていることを皆さんにご披露したいと思い、その記事もお配りした。また、被服支廠についてアーキワーク広島が作成した資料も、今日の議論の中で活用していただければと思う。それから、昨年福島県の会津若松と山形県の米沢に行った時に入手した、バスと各種施設の入場割引券がセットになったパンフレットも、資料として用意した。

事務局が説明した資料について、3ページのコンテンツの利用状況について、ユーザーが5,531名とある。これが多いか少ないかは、皆さんそれぞれ思いが違うだろうと思うが、良いものをつくって稼動を始めたので、発展させていきたい。そのためには、求める人にどのようにして伝えていくのか。情報を求める人にうまくつないでいかないと利用を伸ばすのは難しい。私も街中でスマートフォンを見ている人や地図を広げている人に声をかけ、ピースツーリズムのチラシを渡すと、とても喜んでくださる。必要とする方に如何に情報を届けるかが、活用にあたっての大きな課題だと思う。6ページの平和関連の施設、被爆遺構などの発信力の強化について、20箇所程度を想定して説明板の整備を進めたいと作業を進めてくれている。市内の主な説明板の実態調査を事務局が行っているが、説明板は色々なものがあり、中身の濃いもの、薄いものなどバラバラである。これの全部を改善すると膨大な経費がかかる。限られた予算の中で如何に多くの人に伝える内容にするかということも、大きな課題だと思う。7ページの、市立商業高校のピースデパートについても少し話をしておきたい。これは商店経営、会社経営をするためのノウハウを蓄積するという目的を持っているが、それ以外に、最近では東日本大震災の被災地の産品を取り寄せて販売し、現地の皆さんの活動資金にするという取組も加わっている。もう一つの目的はまさに「ピース」デパートで、市商が取り組んできた平和関係事業のことに加えて、今回はピースツーリズムの推進についてコーナーを作ってくれた。8ページの31年度取組予定については、事務局から説明があったように、現在関連予算案が議会に出されたところであり、議決されれば事業化できるものである。現代美術館は、来年度実施設計をし、翌年から2年かけて改修工事を予定しているが、この懇談会においても色々な提案があったように、できるだけ多くの市民を迎えるような施設づくりと事業計画策定を行ってほしいと担当部局にもお願いをし、一つ一つ実現に向かっていく。9ページの本川小学校平和資料館の休日開館について、懇談会においてなぜ休日に開館できないのかという意見をいただき、事務局が教育委員会と協議を重ねてきた結果、休日開館が実現する方向で動きは始めている。旧中島地区の被爆遺構の展示の問題も、国際平和推進部が努力を重ねてくれているが、なかなか成果が市民の目に届いていないという心配もある。今日時間がとれば、現在の状況はどうか、今からどう作業が進んでいくのか説明いただければと思う。レストハウスも改修工事が進められており、そちらとの関連もある。10ページのユースピースボランティア事業とい

うものが予算計上されており新しい視点だと思うが、一方、被爆体験証言者、被爆体験証言者から指導を受ける被爆体験伝承者の制度、平和学習の講師、ピースボランティアの制度それぞれが活動している。一番気がかりなのは被爆体験伝承者の制度について、被爆証言者が高齢化し、リタイアされる人や残念ながら亡くなる人がいて、いつまで伝承者事業を続けていけるのかということだ。あと数年しかできないのではないかという危機感を持っている。証言者としては私の世代が最後の世代であり、後はいない。早急に制度そのものを見直す必要があるのではないか。新しい制度に加えて、今ある制度についても見直しすることが必要であろう。今後の事業推進については、ピースツーリズム推進懇談会を継続して開催する予算も計上されているので、予算案が議決されれば、この懇談会を来年度も継続して開催することができる。最後に、2020年のオリンピック・パラリンピックの開催は先の話という感覚を持たれているが、これは来年の話であり、被爆75年にもあたる。今年の10月、つまり半年後には新年度の予算を組み立てる時期が来る。2020年は先の話ではなく、今の話である。今から、秋口の予算編成に向けて努力を重ねていくことになる。これについても、皆様のご意見をいただきたい。特に文化関係のセクションからすると、オリンピック・パラリンピックが終わってしまうと文化関係事業の予算が削減されるのではないかと、今年度と来年度が正念場になるのではないかと、という危機感を持っている。そういう状況の中で、今日いただく意見も具体的な行動に反映させていきたい。

◆スマートフォン向けコンテンツの周知に向けた取組状況について

◆リーフレットの制作について

(渡部委員) 私自身はスマートフォンを使いこなしていないので、利用状況がどうなのかということについては平尾委員から話を聞きたいのだが、高くないのではないかと。わざわざチラシに紙を貼って配付して利用者の声を聞こうというのは、広島市がピースツーリズムに力を入れていることを証明するものではあると思うが、あなたの意見やコメントをくださいという聞き方では、これをさらにどうしていけば使っていただけるかということとは受け止めないのではないかと。これでは「本当の意味で平和都市と感じた」というようなコメントしか出てこない。使いやすさや、どこが良かったのかなど、回答しやすく、本当に聞きたいことが得られるような尋ね方にすることが大事である。スマートフォンを使いこなしているのは若い方達なので、若い方の意見を反映させるような取組を、今年から積極的にやっていってはどうか。大学生やIT業界で働いている人などで、さらに広島に住んでいるのではない人に聞くことが大事である。その時に、今あるものをどう変えるかということだけでなく、あなただったら広島の平和の発信をどうデザインするかという、創造的な問いかけができるとよいと思う。大学には色々なクラブがあり、地域の問題に取り組んでいるクラブもある。そういう大学生の力をどんどんいただき、もちろんユースボランティアの高校生の皆さんの力もいただくというふうに、ここを厚くしていくことが大事ではないか。高齢者も、最近はスマートフォンを使う方がいるので、そういった方の声を聴いたらどうか。

リーフレットについては、字が小さく情報がありすぎて読みづらい。長崎さるくのマップは読みやすい。何がどう違うかについて検討してもよいのではないかと。読みやすさと、読んでみたいと思わせるものにすることはとても大事である。長崎さるくの地図には、単なる地図だけ

でなく、色々な書き込みがある。このリーフレットを見てルートを歩いてみようと思うかという視点で検討が必要ではないか。長崎さるくの事例では、エリアの中の平和に関すること以外のことも紹介してあったり、人物の紹介があったりする。大きなストーリーがきちんと書き込んである。これから予算をかけて作るリーフレットには、工夫の余地があるのではないか。それから、私が平和公園等をご案内する時、皆さん本当に重い話に耳を傾け、目を見開いて、心を開いて歩いた後で、あとどこに行きたいかと聞くと、海を見たい、川を見たい、少し離れたところに行って静かに考えたいとおっしゃる。広島中が平和のフィールドだと思っているので、そういう情報もこの中にあって、海のそばに行き、そこにはまた色々な遺構があったりする。街を巡っていただくという観点も入れるとよりよくなる。

(古谷委員) コンテンツができたとき、通訳ガイド協会の会員 230 人に、こういうものができたのできちんと勉強してガイドするようメーリングリストで流した。2019 年の学習会では、袋町小学校と本川小学校、被服支廠を見に行くツアーを行うことになった。今まで、原爆ドームと碑めぐりと平和記念資料館（以下「資料館」という）だけであったのが、もう少し深く広島のことを伝えることができるよいきっかけになったと思う。1 月はあまりガイドの仕事がなく、大学から講演の依頼を受け、修道大学の国際政治学科の学生 80 人や、韓国の慶北大学の学生 20 人に、広島の復興や、2020 年に向けて広島がすべきことなどについて話をした。その時にも、このコンテンツができてから読んでくださいと紹介している。原爆のことなどにあまり知識がない方、あまり注意を払っていない若い方達には、とてもよいものと思う。しかし、ガイドをする時には、コンテンツを見てもらうのではなく、自分の話をしていきたい。

(平尾委員) 1 年半関わってきて、最初は何の会議なのかと思ったくらいだったが、「平和」という分野、広島にとって大事なキーワードを、「観光」という視点から見たときにどう活かしていくか、ルートや施設、市民意識、体制といったことを考えていくための懇談会だろうと改めて理解した。

スマートフォン向けコンテンツの周知の取組状況の資料について、色々なターゲットに向けて、この人達にはこの情報を届ける、この人達はこのような所にいるから届け方をこうするなど細かく整理する必要があると話していたので、形にさせていただきありがたい。もう一点、広島のピースツーリズムに参加してみようという方には、意識の違いがあるのではないと思う。①そもそも平和を目的に来ている人にはどう届けるか、②平和が目的ではないが広島に来ている人、例えば、会議をしに来た人、F I S E のような競技を見に来た人、オリンピックの合宿に来た人など、広島に来ているがピースツーリズムの存在を知らない人にどう届けるか、③広島に来ていないが、ぜひ来てこれを体験してもらいたいという人にどう届けるか、といった 3 つに分けられると思う。参加者の方々の平和に対する思いによっても届け方が違う。この資料にあるのは主に②を対象にしたものであると考える。①と③も入れてレベル分けをしていくと、教育旅行関係者に訴えていこう、旅行会社に訴えていこう、M I C E 誘致をしている部署から広げていただこうなど、施策がもう少し具体的になるのではないか。

リーフレットについては、見た瞬間情報が多いと思った。ぴーすくるや Wi-Fi、被爆体験伝承者の紹介などここにこの情報があるのか。ルートを歩きながら見る情報として相応しいかということを精査する必要があると思う。情報は増やすのは簡単だが、絞るのはすごく難しいので、フィードバックを得ながら改訂していく仕掛けが要る。現段階ではこれで出しつつも、バ

ージョン 10.0 など、どんどんマップやサイトがバージョンアップしていける仕組みをちゃんとつくっておくことが大事だと思う。まずは、どんどん使ってみて、参加した方々、歩いてみた方々からフィードバックを受けて、このマップやサイトのあり方自体に対しても活かしていく仕組みづくりが大事である。

(津村委員) 阪谷委員からコンテンツの利用がなかなか伸びないと聞いたため、平和推進・国際交流の部門として何かできないだろうかと考え、効果がどの程度あるかは分からないが、年間通じてたくさん受け入れている研修や視察など、国内外から広島に来られた方々をお迎えする時に、このチラシを配付資料の一つとしてお渡しし、時間があれば回ってみてはどうかというご紹介をきめ細かくしていきたいと思っている。国際交流課で所管している広島市留学生会館に入居している留学生は、短期留学の方もいるが、2年くらいいる方が多いので、そういった方々に利用してもらい、母国の友人などに口コミで伝えてもらうといったこともできないか。留学生会館には私からピースツーリズムについて協力してもらうよう依頼しているので、ぜひ活用していただきたい。リーフレットについても、留学生のご意見も聞いたらどうか。コンテンツの中身の見せ方、ページの作り方、情報の発信の仕方などで気になったのだが、今年度留学生など外国人にルートを歩いてもらってご意見をいただいた時に、コンテンツについての意見は聞いたのか。その意見がどのように反映されていくのか。ピースツーリズムのコンテンツは日本語と英語が基本同じ作りになっているが、日本語以外を母国語としている方々にとって、日本語のホームページの作りとは違う関心の持ち方をしていると聞いたことがある。ページの作り方は、言語によって変えた方がより効果的ではないか。

(阪谷委員) まずスマートフォン向けコンテンツの利用状況について、利用促進に向けて別紙1のとおりできることを一生懸命し、案内所のスタッフが来所者に直接チラシを渡して案内したが、この利用状況は私は非常にはかばかしくないと思っている。年間150万人外国人が来ている中で6割が英語圏の人なので、それを単純に365日で割ると毎日数千人来ていることになるが、3ヶ月でこれだけの利用しかないのは少ない。平尾委員から話のあったように、これから取り組むにあたって、もう少し来広者の意識のレベル別に当たり方を考えていくべきだと思っており、津村委員から話のあった国内外から国際平和推進部に来られる方、つまり平和について目的意識がある方に、直接国際平和推進部から声を掛けていただいたり、広島の地で学びたいという目的意識を持って来られている留学生に直接渡してもらうなどすれば、ピースツーリズムの関心度や利用度が上がっていくのではないかと。そして、そういった方から拡散していくことによって、さらに利用が増えていけばと思っている。今回、案内所で意見・感想の送付依頼を約2,000枚配って、1名からしか回答がなかったような状況である。今日いただいたご意見も参考にして、改善を図っていきたい。リーフレットは、今日配付しているデザイン案はA3サイズの紙に印刷しているが、実際はこの大きさではなく、別途机上に配付している現行の観光マップと同じA2サイズになるので、文字はもう少し大きくなる。ただ、記載する中身をどうするか。これはたたき台なので、ぜひ色々なご意見をいただいて作りこんでいきたい。そして、平尾委員が言われたように、バージョンアップしていくことが大事だと思うので、どんどん見直しをしていきたい。津村委員が言われたように、外国人と日本人の感覚は違う。これまで日本人向けも外国人向けも同じように作っていた紙を、昨年外国人に見てもらったところ、こんなものは外国人は見ないと却下された。このように作りこまないと読んでいただけな

いということを書いて改善した。スマートフォン向けコンテンツもリーフレットも、外国の方の意見をしっかり聞きながら、作り方を変えていきたい。古谷委員のように、外国の方に多く接している方からも、こうした方がよいというアドバイスをいただければ、よりよいものになると思う。

(渡部委員) これができたら、広島市内の学生にぜひ歩いてほしい。先日、私の事務所に高校生が二人来たが、追悼祈念館に一回も行ったことがなく、どこにあるかも知らないというのでびっくりした。これが現状なんだと思った。中学生、高校生、教育委員会と協力して、夏休みでも授業の中でもよいので、広島の学生に実際に歩いてもらって、レポートを書くという形で活用できるのではないかな。そうすると、その学生達が伝えてくれる。修学旅行で来られた横浜の森村学園の先生に、事前に修学旅行のルートを決める参考にしてくださいと、ピースツーリズムについて紹介した。先生は、資料館や追悼祈念館を見るだけでなく、街を巡るということをしてほしいということで、小グループで実施した。非常に効果が高かった。そんなところでも活用できる、よいものがあったと思う。

(原田座長) またご意見があれば、ぜひ事務局に伝えていただき、よりよいものを作ることができるよう進めていきたい。

◆懇談会で提起された意見や提案への対応について

(原田座長) 資料に、「修学旅行向けの昼食・被爆体験講話等の会場として、事業者が運営する貸し会議室提供の試験的实施」とあるが、以前からも、雨が降ると昼食場所や休憩する場所がないので、資料館や国際会議場のロビーを提供してほしいとたくさんの人が集中して来ることに悩んでいた。事務局で検討してくれた結果、最近あちこちにできている民間の貸し会議室を提供してもらうことで、社会人や修学旅行の団体が予め場所を用意できる受入体制を設けようと、試験的な会議室提供に踏み切ることができた。今までなかったことであり、できるだけ利用金額を抑えてで実現できればよいと思っている。

(渡部委員) 被爆樹木のプレートは、被爆樹木に関する活動を行うグリーンレガシー・ヒロシマ(NPO 法人 ANT-Hiroshima とユニタールが共同で設立) が調査してデザインを決め、東南ロータリークラブがプレートを広島市に寄贈して取り付けたものである。オリンピックまでに、出来る限り刷新したいが、広島市の財源は限られているので、奉仕団体が広島には多くあり、そういったところをお願いするのも、足りない財源を補う方法ではないか。被爆樹木のプレートを作成するにあたっては、1年以上かけて、木に負担をかけない重さを考慮したデザインの作成や、個別の被爆樹木のデータベース作りを行った。そこまでしなくても、今のものを改修するお手伝いについては、様々な団体をお願いできると思う。一刻も早くという思いがある。オリンピック対応が本当に遅いと思う。広島市だけではできない、皆さんの力が欲しいということをごんごん発信していき、「皆さんと一緒に、海外から来られた方を広島にお迎えする態勢を作りたい」ということをぐっとアピールできるとよいと思う。先日、二人の市民から、「ピースツーリズムとは何か？最近色々見聞きするのだが、どう市民が関われるのか？」と聞かれた。シンポジウムの開催でも、説明会でもよいのだが、ピースツーリズムを認知していただき、市民の皆さんのアイデアや意見も聞く、市民の皆さんとの双方向のやりとりの機会を、次年度に最低でも2回くらい設けたいと個人的に思っている。それくらいの気持ちで取り組んでい

ただけるとよい。

広島駅に行くたびに、ひろしまジン大学が取り組んでいる市民による観光案内で、ビブスを着た人が一生懸命活動されているのを見かけ、嬉しく思っている。こうした方々に、モデル的なピースツーリズム案内人となっていただき、フィードバックをしていただくということを、予算をつけてやってみてはどうか。市民の皆さん、市民団体のノウハウを活かして広げていただくことができるとよいと思う。

(古谷委員) 拠点施設の確保について、具体的にどんな場所になりそうなのか、差し支えなければお聞きしたい。そういう場所についての情報を求められることがある。

(原田座長) 去年とりまとめた概要資料に挙げた「迎える市民の積極的な関与」を進めることで、拠点施設、市民との接触の場にも繋がっていくことを期待している。去年2月のとりまとめの段階で目論んでいたのは、こども1110番の家のような形のものできないかということだ。皆さんでご議論いただきながら、できるだけ早く実施にうつしたい。そして、渡部委員の言われた案内板も皆さんの力を借りて何かできないか。街角に各企業の協賛をいただいて花壇を整備するケースもあるので、そこにつなげていけるとよいと思う。今日の意見を契機に、より具体的な方向に進めていきたい。

(古谷委員) 福島大学のカナダ人の先生と、福島県観光課の方が去年9月に来られた。福島は2011年の東日本大震災によって本当に大変な状況にある。広島も74年前に被爆しているが、現在は、ニューヨークタイムズの2019年に世界で訪れるべき場所52ヶ所に、日本で唯一瀬戸内の島々が入り、常石造船のガンツウ、瀬戸内国際芸術祭と並んでリニューアルが終わる平和記念資料館がよいと紹介されているほか、トリップアドバイザーの外国人に人気の観光スポットランキングで、伏見稲荷に次いで資料館が2位、厳島神社が3位に入るなど、インバウンドツーリズムで着目されるようになったのはどうしてだと聞かれた。福島県でも地域通訳案内士を募集して今から訓練しようとしており、広島に学びたいと言われた。ピースツーリズムのサイトも素晴らしいと言っている。福島ではホープツーリズムとして拡大していこうとしており、ひろしま通訳・ガイド協会に学びたいと、3月にまた地域通訳案内士が広島に来られ、情報交換をすることになっている。彼らから74年前は大変だったでしょうと聞かれたとき、74年前は生まれていないので知らないというような答えをしてしまったが、福島では8年前に起こったことがまだ本当に辛い思いとして残っているという状況をみたとき、広島のことをもっと知らないといけないと思った。昨日案内したお客様は、牡蠣がおいしいというのが瀬戸内海の海底には残留放射能はないのかと言われた。福島原発やチェルノブイリや広島は違うことが分かっているのだが、どのように違うのかということについて、恥ずかしながらきちんと知らない。9月17日の枕崎台風で汚染物質が流されたとか、ごまかしてしまっていたなと思った。そういう資料はあるのだろうか。

(津村委員) 100%科学的に立証された資料は見た記憶はない。基本的には残留放射能は無いのではないかという分析がされているのは見たことがあると思うが、今正確には申し上げられないので、勉強する。

(古谷委員) 福島に行って彼らの状況を見聞きして、聞かれたときすごく恥ずかしかった。ぜひお願いしたい。

(原田座長) 私も知る限り、まとめた資料は無い。これは何か作らないといけないという気持

ちは持っている。

(渡部委員) 被爆建物の活用法の一つに、科学的なエビデンスをきちんと見せる場所を作ることが必要ではないかと思う。海外の人達にアプローチするときに、きちんとしたエビデンスを示して事実はこうなんだという話と、被爆者の方が証言されているような、きのこ雲の下で人々に起こったことの話の、両方がないと説得力がない。資料館はスペースが限られており、専門的なエビデンスをきちんと出すということは難しいと思う。広島大学の中に原医研の資料室があるが、まだ十分に公開されていない。例えば、広大の被爆建物において、そこに行くと様々なエビデンスについてきちんと学ぶことができるという場所を、県と市がともにつくることが広島にとって必要ではないかと思う。

(平尾委員) ピースツーリズムは、バスで団体が一度に訪れるようなマスツーリズムのようなものよりは、着地型の観光でしっかりとこの地域のことに触れて丁寧に関わるという種類の観光に位置づけられるのではないか。長崎さるくを以前も紹介したが、長崎さるくは、地図もすごいのだが、この地図をもとに案内するのが市民であり、市民が観光に来た人をきちんとガイドできるようにしっかりと勉強して、自らに、そして自らの地域に誇りを持つことにもつながっているのが、すごいところである。来られる方を迎えるということだけでなく、受け入れる側の教育ということも同時に考えておく必要がある。これをきっかけに、何らかの形で私達が学んでいくことを持って市民の連携を図っていくのが大事だと思う。教育委員会等と連携して、ピースツーリズムを平和教育の中に位置づけたり、生徒や学生たち案内側にまわってもらったりというような視点も要るのではないか。観光と社会教育・学校教育を、裏表でしっかりと考えて、受ける側をしっかりと作っていくことが必要であり、これが市民との連携・協働になっていくのではないか。

(津村委員) 古谷委員から紹介のあった、資料館を含めて瀬戸内を訪れるべき場所として紹介されていることは、ありがたいことだと思う。長年にわたる、通訳ガイドの皆さんや、ボランティアの皆さん、NGOの皆さん等の努力の現われではないかと思う。資料館については、厳しいご意見もいただき、リニューアルオープンをできるだけ早くするようがんばり、当初予定より1年のびたが、4月25日に本館がリニューアルオープンする。これまで以上に被爆の実相を理解していただけるような展示の工夫をしており、一つは8月6日に広島で起こった惨状を、あたかもその場にいるかのような感覚で見えていただける展示にする、もう一つは亡くなった方や遺族一人一人の悲しみ、苦しみと向き合ってもらえるような遺品や手記等の展示をするという、この二つを大きな考え方の柱として工夫した展示構成にしているので、ぜひ多くの方に来ていただきたい。科学的なエビデンス等は東館の3階を中心に展示しているが、確かにスペースは限られており、情報を網羅するのは難しいというのはそのとおりだと思う。旧理学部1号館の話も出たが、市の所有物であり、市が主体となって検討を進める。都市整備局が所管しているが、国際平和推進部も一緒に協力して進める。基本方針は、平和に関する教育・研究と交流・発信という機能を導入することとしている。その発信機能の中で、広島大学の原医研が持っておられる資料類なども取り込めないかということについても、議論することとしている。具体的には著作権の問題など色々な課題やハードルがあり、乗り越えていかないといけない。研究に関しては、広島市立大学の平和研究所と、広島大学の平和センターの二つの研究機関に旧理学部1号館に移転していただくということを前提に、両大学と市の三者で、施設のあるべ

き姿や運営体制などについてワーキンググループを作って一緒に検討するよう話を進めている。説明板について、国際平和推進部としては予算が議決されれば優先度の高いものから対応しようと考えている。説明板には、レンガ色の写真と詳しい説明を記載している原爆被災説明板と、被爆建物と被爆樹木についてはそれが被爆建物・被爆樹木であることを表示する表示板があり、それぞれ用途、目的が違う。原爆被災説明板については、英語表記がない袋町小学校平和資料館の説明板への対応、段原の国民第一学校の説明板の補修、レストハウス説明板写真が設置場所とは別の角度から撮った写真になっていることの修正、工事中のため一時避難しているアンデルセンの説明板の据え戻し、正面に街灯があつて見にくい千田町の貯金支局説明板の向きの変更といったものを考えている。被爆建物の表示板については、広島旧理学部1号館には表示板が無いので最優先で付けようと思っている。インクが消えている陸軍糧秣支廠（郷土資料館）の表示板の補修、情報が少ない被服支廠の表示板の拡大・説明追加も考えている。予算の執行状況を見ながらの対応になるが、できるだけ来年度対応していきたい。旧中島地区被爆遺構については、有識者や被爆者等にメンバーになっていただき懇談会を昨年7月に立ち上げて検討を始め、12月に試掘調査をし、現在その調査結果の分析・とりまとめをしている。次は3月に懇談会を開き、試掘調査結果を踏まえた次の展開として、大まかな展示場所や展示方法を議論していただき、それをもとに来年度、展示を前提とした場所を掘削する確認調査を行い、どういう形で保存して展示するかといったことの検討に入っていきたい。被爆75周年の2020年度中の公開を目指して着実に進めていきたい。

(阪谷委員) ピースツーリズムに取り組んできて、広島市役所庁内の組織がピースツーリズムに目を向け、協力してくれるようになってきた。国際平和推進部はもとより一緒に取り組んでおり、津村委員からお話のあったように説明板の改修などの連携協力をしていただいている。ほかにも、教育委員会が、本川小学校平和資料館の土日開館について理解していただき、整備の予算を計上していただいたことは、非常に大きなことだと思う。平和記念公園を所管する緑政課には、説明板の改修を前倒しして進めていただいている。庁内がピースツーリズムに向かって進んできたというのが実感としてある。先ほど原田座長から話のあった、修学旅行で広島に来た子供達が昼食をとったり被爆体験証言を聞いたりする場所がないことについて、民間事業者と話をしたところ、ぜひモデル的にやってみようという話になったので、これが改善のきっかけになれば大きい。もう一つ行政的な課題として、国際会議場、資料館、改修中のレストハウスの3つの施設内の昼食・休憩場所を使ってもらおうオペレーションを、3施設がいかにうまく連携して行かということがある。これについては議会からも指摘があり、来広する学校にとっても望ましいことだと思うので、3施設の連携をうまくしながら、民間施設も活用していただき、来広する子供達が気持ちよく過ごして、しっかり学んでいただく環境整備を、観光政策部としてしっかりやっていきたい。我々広島市民、特に子供や学生が、平和というものをどう捉えて、そしてそれを来られた方にどのように説明していくかということは、重要だと思っている。教育委員会は学校教育の中で平和教育をしっかりやろうと取り組んでいるが、渡部委員が言われたような学生が追悼祈念館を知らないとか、他にも子供達が分かっていないことがあるので、学校教育もやりながら、学校教育とは別の切り口でも、どのようにして子供達に伝えていくのかということに取り組んでいかないといけないと思っている。レストハウスの改修を2020年7月オープンに向けて進めているが、ここでは旧中島地区の資料展示をやろうとし

ている。これに加えて、資料館、追悼祈念館、本川小学校平和資料館、袋町小学校平和資料館の5つの施設を巡っていただくことで、被爆の実相、そしてかつて広島には市民の生活や、歴史、文化があったといったことを理解していただきながら、平和への思いを共有していただくという環境を、観光政策部としてもしっかり作っていききたいし、国際平和推進部とも連携していききたい。

(原田座長) 古谷委員から福島の実情の話があった。昨年11月に福島県に行って来た。広島コレクション、つまり資料館がどのように被爆資料を収集・保存・展示してきたのかということについて、経緯も含めて話をしてほしいとのことだった。その時にピースツーリズムの話も出て、福島県も強い関心を持っている。福島県では、今になってやっと原発遺物を中心に収集する作業が始まっている。具体的にいつ、どこで、どのように展示するかということまではいっていないが、今集めないとどんどん散逸してしまうという危機感を持って動いている。もう一つ伝えておきたい。相生橋のT字路の南北の道路(めいぷる〜ぷや観光バスが走る道)の路面が悪くなっているのを舗装工事を依頼していたところ、担当部局が予算をかき集めてきちんと補修してくれた。このように懇談会の意見を受けて事務局が動いたことにより、一つ一つの課題に担当部局が対応してくれている。この2年間でここまでできたのは、皆さんの提言を受け事務局が積極的に動いてくれた成果であろう。

被服支廠の説明板に「西側の鉄扉のいくつかは、被爆時の爆風で変形した痕跡をとどめています」とあるが、いくつかではなくほとんど全部である。改訂され、事実をしっかりと記載するよう目配りしていただきたい。福屋の前の説明板は、福屋の全体が見えるように東急ハンズの前に立っている。福屋からは近いところに置きたいとの要望があるが、それは福屋でご協力いただけないかと思っている。限られた予算の中では、同じ建物に2つ説明板を設置するのは難しいので、そういったことも進めていきたい。

資料館が4月にリニューアルオープンするということで、皆さん期待していると思う。資料館のあり方については、この懇談会でも色々なご意見をいただいた。もうあそこへは行きたくないというご意見もあったし、たくさん意見が出されているので、どうリニューアル後の形の中に位置づけられていくのか、しっかりと見極めていきたい。数年前のことだが、リニューアルオープンについて「グランドオープン」という言葉を使っていて、中国新聞で異論が出たことがあった。最近はリニューアルオープンという表現に統一されているが、資料館の持つ意味をお互いに認識しながら、より力強い情報発信の施設として活用していくことができればと思う。

(渡部委員) 資料館では「観覧券」売場という表現を使っているが、リニューアルにあわせて、シンプルに「入場券」としてはどうか。観覧券というと、何か楽しいところに入るような印象を受ける。違和感を持っている市民がいる。

現代美術館が平和文化発信の拠点になってほしいと思っている。非常によい企画展をされているが、「原爆の図」が常設されるとよいと思う。先般「原爆の図」を見たとき、とても迫力があり、広島にあってほしい絵だと思った。渋谷駅に行くと、いつも岡本太郎の絵を見て、この絵が広島に帰ってこないかなと思う。例えば、比治山公園が平和の丘になり、資料館から少し時間をおいて歩いていただき、平和文化に触れて新たな思いを持って帰っていただくというような、柔軟な新しい発想に基づいた広島を巡り歩くルートが誕生すれば、と思っている。

(原田座長) 広大旧理学部 1 号館と被服支廠はすぐ決まるものではないが、いつまでもこのままの姿にしておくのではなく、被爆建造物の中でも重要な施設なので、一刻も早く結論が出るように、それぞれの関係部局で努力していただきたい。広大旧理学部 1 号館は、津村委員から話のあったように、広島大学と市立大学の平和関係のセクションで一緒になって何か作ろうとしており、やっとここまで来たという状況である。私は、すぐ横に広島大学の法学部と経済学部
の夜間主コースの学生が学ぶ校舎があり、昼間は空いているので、広島大学に依頼してそこも活用すればより効果的な平和学習、平和発信機能に繋がっていくのではないかな。

東日本大震災の各地域から震災以降の保存にあたってたくさんの方々をお迎えしたが、彼らが最も関心を持つのは、日赤病院のモニュメント、本川小学校平和資料館、袋町小学校平和資料館である。これらは、自分達が残すものはこのようなものになると、具体的なイメージがわくものようだ。私はかつて日赤病院のモニュメントの作成に関わっており、あれだけしか残せなかったのは極めて残念であったが、震災地域からはとても関心を持たれるものになっている。しかし最近では相当錆が出ています。錆止めを行政がするのは難しければ、日赤に依頼してもらいたい。働きかけをするとか、助成をするといったことが必要ではないか。出来上がったなら終わりではないので、フォローをしていくことも必要だ。

被服支廠については、4 棟残っており、1 棟残すのに 30 億円かかるからどうする、という議論では前に進まないと思う。考えないといけないのは、あの建物のエリアをどうするのかということではないか。その中で、広島市としては被爆建造物をどのようにしていきたいのか、そして財源はどうするのかということに結び付いていかないと、いつまでもこの状態のままになるという危機感がある。先日、平和学習の場にするという新聞記事が出ていたが、県としては平和学習の場として使うように積極的に動いているわけではないようである。被爆建造物を保存する市の立場として、どうあるべきかということを議論したうえで、今後に進めていってほしい。原爆ドームよりも 2 年早く作られており、建てられてから既に 100 年を超えているので、1 歩でも 2 歩でも進めていく努力に期待したい。

◆その他意見交換

(渡部委員) あるアメリカ人の教師から「日本ではどう戦争を教えていますか」と聞かれた。戦争の実態は教えていない、というのがその答えだろう。子ども達は、ゲームと映画の世界しか知らない。被爆建物の被服支廠は、戦争の実相を教える場であってほしいなと思う。この中で何かするには耐震の問題などがあるかもしれないが、圧倒的な存在感がある。当時は軍がいかに力を持っていたかということも含めて、戦争の実相を伝えることも、平和との対比する意味で大切なのではないかな。長くそのままにしておくというのは止めたい。議論が公開されないのもいけない。広島において、プロセス、議論が公開されないまま物事が決まってしまうことが、最近非常に多いと思っている。それはいけないと強く思う。

(平尾委員) 被爆建造物等の保存・継承とは言うが、活用という言葉がなかなか出てこない。旧日本銀行広島支店の中で色々な事業を展開するということを文化振興課から受託していたが、金銭授受はだめ、飲食はだめなどやってはいけないことが多すぎて、活用というところに民間が入りにくい。もちろん守らないといけない、保存しないといけないという大義名分はあるのだが、活かしていくという発想があってこそ継続できるし、民間でも持続可能な運営のための

資金が生み出せると思う。ぜひ、締めつつ、緩めつつということをやうまくできればよいと思う。

(古谷委員) 上から見るとEの形の広大旧理学部1号館を、Eのまま残す、真ん中をとってCにする、お金がないのでIにするといったことを、10年以上前からずっと言ってきて、ようやく先ほど話のあったような計画が進むというニュースを見たが、その後の進展が全然ニュースに出ないのは、とても残念である。ぜひ進めていただきたい。

(原田座長) なかなか議論が見えない。ピースツーリズム推進懇談会は全て公開で、一般の方も来ていただいて結構だし、報道関係の方にも来ていただいているが、そちらの場合は、残念ながら非公開の部分が見受けられる。多くの人に意見を聞いて、財源をどうするのかということも含めて議論を進めていかないと、前にいかない。残念なのは、被爆遺構の問題がどのように進んでいるのか、市民の方や残す会の皆さん、報道関係の皆さんから、なかなか情報が伝わってこない、ぜひもっと公開してほしいという意見が出ている。古谷委員が言われたように、今から先は、平和問題というものはできるだけ公開の場で多くの人の意見を聞きながら具体的な形にするということが必要ではないかと思う。

(津村委員) 遺構の情報公開が足りないのではないかということについて、懇談会は全て公開で開催しているので、ぜひいらしてほしい。おそらく原田座長の耳に入っているのは、試掘した時の物の情報が最小限しか出ていないということではないかと思う。我々は試掘をしてそこに何があったかを特定したいがために調査をしたのだが、出てきた物を見てそれが何だったのかをすぐに判断できない。誤解を招く恐れがあり、不用意に多分これではないかということと言えない。そういった事情があることはご理解いただきたい。広大旧理学部1号館についても、有識者や地元の方々による懇談会という組織があり、その懇談会はすべて公開で開催されている。ただ、大学の関係者の皆さんとどういう教育機能を入れたらよいかという検討会を作っており、そこで色々忌憚のない自由な意見を言っていただく必要があるが、公開で開催すると、大学の経営に関する話などができなくなることを配慮して、そこは非公開にした。しかし、検討会でとりまとめた意見、提言はすべて公開の懇談会に諮っている。

(阪谷委員) 情報提供だが、平和大通り芸術展を今年度も開催する。2月23日に旧日本銀行広島支店でセレモニーを開催するので、ぜひお越しいただきたい。芸術を巡りながら平和についても考えるきっかけになればと思う。

(原田座長) 次回の懇談会では、皆さんにご議論いただいたものが具体的にどう事業化されているのかを踏まえて、新年度に入って資料を整理したうえで進めていきたい。予算が議決されれば、ぜひ引き続きこの懇談会の場で皆さんのご意見をいただきたい。